

# 「つながるウォーターサイド TEGA」

～白樺派など多くの文化人が愛した自然・沼とにぎわいのあるまち～

## 報告書



平成 2 7 年 6 月

手賀沼・手賀川活用推進協議会

## 目次

1	報告書策定の背景と目的	1
2	これまでの検討経過	2
3	手賀沼・手賀川の地域特性と観光資源	
	(1) 地域特性	6
	(2) 観光資源	7
	(3) 手賀沼・手賀川活用の現状	7
4	手賀沼・手賀川活用推進に関する(県・各市)計画・事業	9
5	市民ニーズ等	
	(1) 各市のアンケート調査	18
	(2) 民間進出可能性調査	29
6	手賀沼・手賀川エリアの将来像	31
7	目標と基本方針	
	(1) 目標	32
	(2) 基本方針	32
	・基本方針1	33
	・基本方針2	37
	・基本方針3	44
	(3) リーディングプロジェクトの実施	50
8	今後の展開	60
9	手賀沼・手賀川独自の『水辺文化』創出に向けて	61
	資料編	
	○手賀沼・手賀川エリアマップ	

## 1. 報告書策定の背景と目的

---

手賀沼・手賀川は、都心から40km圏内に位置し、豊かな水と緑の空間は、柏市・印西市・我孫子市はもとより首都圏の貴重な財産です。

手賀沼・手賀川やその周辺は、豊かな自然環境と優れた景観を有するとともに、白樺派の文人たちの旧宅や古墳群、神社仏閣など文化的・歴史的な資源が多数点在しています。また、柏・北柏ふるさと公園や手賀沼公園、道の駅しょうなん、手賀沼親水広場、鳥の博物館、手賀沼遊歩道、我孫子流山自転車道、松山下公園などの施設があり、多くの人々が集い、憩い、交流する空間となっています。

これまでに、隣接する我孫子市と柏市との広域連携では、「手賀沼花火大会」や「手賀沼エコマラソン」などのイベントの開催、2次交通としての手賀沼周遊レンタサイクルの実施やTEGAマップの作成などさまざまな事業を展開し、「手賀沼を生かしたまちづくり」を進めてきました。

また、我孫子市と印西市との広域連携では、NPO法人「印西市観光協会」が運航する舟運事業を活用した観光振興事業をはじめとする「手賀川」を活かしたまちづくりの検討を進めてきました。

さらに、手賀沼の回遊性を高めるために、手賀沼公園から北柏ふるさと公園間の自転車歩行者道や柏ふるさと公園と北柏ふるさと公園を結ぶ橋りょうの整備について検討しているところです。

今後、より一層、手賀沼の魅力向上を図るためには、手賀沼と利根川を結ぶ手賀川を加え、このエリアでの恒常的なにぎわいの創出に取り組む必要があります。また、にぎわいを支えるための持続可能な仕組みづくりも必要です。

そのため、柏市、印西市、我孫子市に加え、国土交通省利根川下流河川事務所と千葉県で構成する「手賀沼・手賀川活用推進協議会」（以下「協議会」という。）を平成23年11月に設立し、国、県、各市の方針や水辺整備に関する先行的な取り組み、関連する事業を踏まえながら、手賀沼や手賀川の水辺整備などの総合的な戦略について、検討することとしました。

協議会では、広域的な連携により、手賀沼・手賀川や周辺の豊かな水と緑の空間とこの地域に所在する様々な資源を活用し、地域の魅力向上や交流人口の拡大、地域産業の活性化を図る魅力あるまちづくりをさらに推進することを目的としています。

## 2. これまでの検討経過

---

協議会設立後の平成23年12月からは、柏市、印西市、我孫子市の若手職員で構成する第1次ワーキンググループを設置し、事業手法や財源、土地利用などの規制を考えずに、自由な発想のもとで、民間活力を活かして、手賀沼から手賀川にかけての自然環境などの資源を活かした事業について検討してきました。

さらに、平成24年6月からは、柏市、印西市、我孫子市の企画・商工担当職員に加え、千葉県東葛飾地域振興事務所・柏土木事務所の職員で構成する第2次ワーキンググループを設置し、第1次ワーキンググループからの提案などをベースに、「テーマ」、「理念」、「目標」の設定や、民間活力の導入可能な施策、事業の選定と体系的な整理を行い、実施予定時期などについて検討を進め、幹事会の意見などを踏まえて中間報告書案として取りまとめました。

この案については、平成24年11月開催の協議会において報告し、意見交換を行いました。

その後、協議会での意見を踏まえ、平成25年5月開催の幹事会で調整し、中間報告書として取りまとめを行い、平成25年10月からは、民間資本を活用して実施の可能性のある事業について、調査研究を行いました。

これを受け、最終的な取りまとめを行い、平成26年度の完成を目標に報告書の作成に向けた検討を進めてきました。

◆検討経過

年 月	内 容
平成 23 年 11 月	○手賀沼・手賀川活用推進協議会設立総会を開催 ○手賀沼・手賀川活用推進協議会を設立 ＜内容＞手賀沼・手賀川活用推進協議会設置要領の制定について 会長・副会長の選任及び顧問の就任依頼について 平成23年度事業計画について 情報交換
12 月	○第1回手賀沼・手賀川活用推進協議会幹事会を開催 ＜内容＞今後のスケジュールについて 第1次ワーキンググループの設置について ○第1次ワーキンググループを設置
平成 24 年 1 月	○第1次ワーキンググループ会議を開催（第1回） ＜内容＞WGの趣旨説明について 自己紹介 事前調査項目の説明 グループ討議等
2 月	○第1次ワーキンググループ会議を開催（第2回） ＜内容＞手賀沼・手賀川現地視察 各グループの討議結果の発表 次回WG会議に向けて ○第1次ワーキンググループ会議を開催（第3回） ＜内容＞各WGでの討議 各グループの討議結果の発表 次回WG会議に向けて
3 月	○第1次ワーキンググループ会議を開催（第4回） ＜内容＞各WGでの討議 各グループの討議結果の発表 幹事会・WG合同会議について
4 月	○手賀沼・手賀川活用推進協議会幹事会・第1次ワーキンググループ合同会議を開催 ＜内容＞WGの検討結果について
5 月	○手賀沼・手賀川活用推進協議会幹事会を開催 ＜内容＞第2次ワーキンググループの設置について ○手賀沼・手賀川活用推進協議会を開催 ＜内容＞第1次WGの検討結果について

年 月	内 容
5月	<p>&lt;内容&gt;第2次WGの設置について 「官民連携まちづくりの進め方」の説明 ～国土交通省関東地方整備局 建政部都市整備課～</p>
6月	<p>○第2次ワーキンググループを設置 ○第2次ワーキンググループ会議を開催（第1回） &lt;内容&gt;自己紹介 第2次WG会議の進め方について 第1次WG（A・B）提案の取りまとめ</p>
7月	<p>○第2次ワーキンググループ会議を開催（第2回） &lt;内容&gt;民間主体及び行政主体の事業仕分け結果の検証 民間主体要素の実現可能な事業の選定及び実現可能箇所の検討</p>
8月	<p>○第2次ワーキンググループ会議を開催（第3回） &lt;内容&gt;第2次WGの今後の方向性について 民間主体とした実現可能な事業の選定及び実現可能箇所の検討について 除外した事業のまとめについて ○第2次ワーキンググループ会議を開催（第4回） &lt;内容&gt;図面上に図示した実現可能な事業及び実現可能箇所について 手賀沼・手賀川に関連する各種計画の確認について 第1次WGより提案された事業のうち、採用を見送った項目の再検討について 第2次WGとしてのテーマ・理念・目標の検討について</p>
9月	<p>○第2次ワーキンググループ会議を開催（第5回） &lt;内容&gt;第2次WGとしてのテーマ・理念・目標の検討について テーマに沿った事業の整理・分類について 第2次WGの取りまとめ作業の検討について</p>
10月	<p>○第2次ワーキンググループ会議を開催（第6回） &lt;内容&gt;テーマ・理念に基づく目標の検討について テーマに沿った事業の整理・分類について 県・各市が行う事業の再確認について 第2次WGでの取りまとめ作業の検討について ○第2次ワーキンググループ会議を開催（第7回） &lt;内容&gt;選定した事業の整理・分類について 県・各市が行う事業の再確認について</p>

年 月	内 容
10月	<p>&lt;内容&gt;第2次WGの取りまとめ作業の検討について</p> <p>○手賀沼・手賀川活用推進協議会幹事会を開催</p> <p>&lt;内容&gt;第2次WGからの報告について</p>
11月	<p>○第2次ワーキンググループ会議を開催（第8回）</p> <p>&lt;内容&gt;幹事会からの意見報告について</p> <p>報告書（案）の修正について</p> <p>○手賀沼・手賀川活用推進協議会を開催</p> <p>&lt;内容&gt;手賀沼・手賀川活用推進協議会中間報告案（骨子）について 等</p>
平成25年 5月	<p>○手賀沼・手賀川活用推進協議会幹事会を開催</p> <p>&lt;内容&gt;手賀沼・手賀川活用推進協議会中間報告書（案）について 等</p> <p>○手賀沼・手賀川活用推進協議会を開催</p> <p>&lt;内容&gt;手賀沼・手賀川活用推進協議会中間報告書（案）について 等</p>
10月	○手賀沼・手賀川周辺における民間進出可能性調査業務委託契約締結
11月	○3市（我孫子市・柏市・印西市）による民間ヒアリング調査の実施方法について協議
平成26年 2～3月	<p>○民間事業者へのヒアリング調査</p> <p>○手賀沼・手賀川周辺における民間進出可能性調査業務報告書を作成</p>
10月	<p>○3市による手賀沼・手賀川活用推進協議会報告書（案）について協議</p> <p>○手賀沼・手賀川活用推進協議会幹事会を開催</p>
11月	<p>&lt;内容&gt;手賀沼・手賀川周辺における民間進出可能性調査業務報告書について</p> <p>手賀沼・手賀川活用推進協議会報告書（案）について 等</p> <p>○手賀沼・手賀川活用推進協議会を開催</p> <p>&lt;内容&gt;手賀沼・手賀川周辺における民間進出可能性調査業務報告書について</p> <p>手賀沼・手賀川活用推進協議会報告書（案）について 等</p>
12月	○3市による手賀沼・手賀川活用推進協議会報告書（修正案）について協議
平成27年 2月	○手賀沼・手賀川活用推進協議会幹事会を開催
3月	<p>&lt;内容&gt;手賀沼・手賀川活用推進協議会報告書（修正案）について 等</p> <p>○手賀沼・手賀川活用推進協議会報告書を作成（書面協議）</p>
平成27年 6月	<p>○手賀沼・手賀川活用推進協議会幹事会を開催</p> <p>&lt;内容&gt;手賀沼・手賀川活用推進協議会報告書について 等</p> <p>○手賀沼・手賀川活用推進協議会を開催</p> <p>&lt;内容&gt;手賀沼・手賀川活用推進協議会報告書について 等</p>

### 3. 手賀沼・手賀川の地域特性と観光資源

#### (1) 地域特性

手賀沼は、松戸市・流山市・鎌ヶ谷市・白井市・柏市・印西市・我孫子市の7市にわたる流域面積143.98km<sup>2</sup>・周囲42.0kmの都心から一番近い天然湖沼であり、古くから白樺派などの文人達に親しまれ、自然の豊かさ・優しさを感じさせる風光明媚な場所となっています。

また、手賀川は、手賀沼に接続し上流部は柏市、下流部は我孫子市・印西市を流れる延長7.7kmの河川で、手賀沼同様の自然環境を有し、飛びかう鳥の姿や羽を休める姿が見受けられ、水生動植物などが多数生息するなど、自然が多く残っている場所となっています。

さらに、手賀沼・手賀川周辺は、首都圏近郊には数少ない広々とした田園地帯が広がり、豊かな自然を満喫できる地域です。

交通の観点では、手賀沼・手賀川周辺を見ると柏市・印西市・我孫子市は常磐線・成田線で結ばれ、さらに、平成27年3月には、常磐線と成田線が東京駅を經由し、品川駅まで乗り入れる上野東京ラインが開業したことにより、首都圏からのアクセスが飛躍的に向上しました。また、幹線道路が整備されていることから、交通の利便性は高いと言えます。



## (2) 観光資源

観光資源として、手賀沼の北側には子の神古墳群・根戸城跡などの史跡と、白樺派の文人など文化人が居住し、文筆活動をした居宅及び作品などを所蔵した「白樺文学館」をはじめ、日本唯一の鳥類専門博物館「我孫子市鳥の博物館」、「水生動植物」などを観察できる「水の館」などの環境・文化拠点とともに、文人達が我孫子を散策した、「天神坂通り」・「ハケの道」など趣のある小道があります。

南側には、旧手賀教会堂・箕輪城址などの史跡と、農業産業拠点として年間100万人以上を集客する「道の駅しょうなん」があります。

また、手賀沼の湖畔では自然を満喫して走ることのできる我孫子流山自転車道、木々の中で自然と触れ合える手賀の丘公園、民間が経営する温浴施設などがあり、市内外からの来訪客でにぎわっています。

さらに、手賀沼・手賀川の結節点には、バーベキューや飲食、さらには釣りなどができる手賀沼漁業協同組合が経営する手賀沼フィッシングセンターがあります。

手賀川沿いには、NPO法人印西市観光協会が運営する舟運事業やたくさんの鳥類が年間を通じて身近に観察できるポイントが点在し、のどかな田園風景の広がりの中で自然を満喫できる場所が多くあります。また、手賀沼干拓に携わった旧井上家や(我孫子市の指定文化財)・銚子からの鮮魚を布佐で陸揚げ後に江戸へ陸運した陸路「鮮魚(なま)街道」、印西市には、国の指定天然記念物木下貝層と同じ貝化石で造られた「貝灯籠」をはじめ、木下の昔の生活を伝える「吉岡まちかど博物館」などの他、手賀沼・手賀川エリアマップ(資料編)に示すように手賀沼・手賀川やその周辺に様々な観光資源が存在しています。

## (3) 手賀沼・手賀川活用の現状

手賀沼・手賀川周辺では、これまで国や千葉県、柏市・印西市・我孫子市が連携して展開するハード事業には、北千葉導水事業の実施などがありますが、連携はまだまだ不十分であると言えます。

ソフト事業については、これまで、手賀マップや手賀沼統一マークの作成、レンタサイクルの実施、TEGAスタンプラリーなど連携して行ってきたものもありますが、集客効果を生み出すようなものに発展するまでには至っていません。また、千葉県と3市では、それぞれマスコットキャラクターやPRキャラクターを有していますが、キャラクターを活かした連携事業なども行われていません。

さらに、実施されているイベントの中には、類似したものがあり、それぞれの機関や自治体が個別に事業を実施している状況にあります。

その一方で、手賀沼ふれあい緑道の整備、道の駅しょうなん、民間の温浴施設、手賀川での舟運事業など、観光・交流・健康・運動をテーマとした各種施設やイベントが充実してきており、商業・農業だけでなく柏市・印西市・我孫子市にとって重要な役割を担うエリアとなってきました。

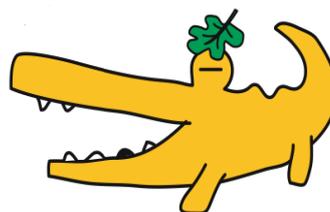
こうしたことから、国や千葉県、柏市・印西市・我孫子市の広域的な連携事業の実施によって、手賀沼・手賀川周辺の公共空間が充実し、民間事業者の参入によって魅力向上が図られることで、一体的な事業が展開されることや魅力ある交流の場として、集客力の増加に繋がり、日常的なにぎわいが創出されるものと考えます。

千葉県PRマスコット  
キャラクター



チーバくん

柏市PRキャラクター



カシワニ

kashiwani©KIC 2009

我孫子市  
観光PRキャラクター



手賀沼のうなきちさん

©我孫子市 2012

印西市  
マスコットキャラクター



いんザイ君

©2011 印西市

## 4. 手賀沼・手賀川活用推進に関する（県・各市）計画・事業

手賀沼・手賀川地域では、県をはじめ柏市、印西市、我孫子市が様々な計画のもと施設整備や地域の資源を活用したまちづくり、地域の活性化、環境保全などの施策を推進しています。また、市単独での事業だけでなく、民間団体やNPO法人等が主催するイベントや、自治体間の連携による広域的な事業など、様々な取り組みが行われています。

さらに、手賀沼・手賀川エリアを一体的な空間と捉え、国・県・柏市・印西市・我孫子市の連携により、日常的なにぎわいを創出することで、交流人口の拡大を図るための広域的な施策展開を検討するにあたり、構成団体が有する諸計画等の調整や整合を図るため、手賀沼・手賀川エリアに関係するこれらの計画や施策展開の方向性などの現状について取りまとめました。

### ア 千葉県

道路整備計画（国道356号我孫子バイパス事業）	
目 標	手賀沼・手賀川周辺地区の交通ネットワークの強化
概 要	国道356号我孫子バイパス（我孫子都市計画道路3・5・15号線、我孫子市新々田～日秀新田間4,800m）の整備
統合河川環境整備事業計画（統合河川環境整備事業及び広域河川改修事業）	
目 標	手賀沼における河川環境の向上
概 要	手賀沼左岸（北側）手賀大橋付近での自然環境に配慮した湖岸堤整備と植生帯整備
手賀沼流域図作成事業	
目 標	手賀沼を身近に感じてもらう
概 要	手賀沼流域図に区域内の名所・旧跡などを明記し、流域内の散策・サイクリングなどに活用して手賀沼の豊かな自然と水辺に親しんでもらう。
我孫子流山自転車道線整備計画（手賀沼自転車道）	
目 標	地域住民にレクリエーションの場を提供すると共に、県内外から訪れる観光客が快適なサイクリングを楽しめる空間を形成する。
概 要	手賀沼・手賀川の南岸沿いに幅員4mの自転車道（約18.7km）を整備する。

### イ 柏市

柏市観光基本計画	
目 標	観光資源の魅力を高めて交流人口・昼間人口を増加させ地域経済を活性化することにより、豊かな生活環境の造成を図る。
概 要	重点地域（柏駅周辺、あけぼの山公園周辺、手賀沼周辺、柏の葉周辺）を設定し、各地域特性を活かした観光施策を検討・実施していく。

	手賀沼・手賀川の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境を活かした観光への取り組み</li> <li>・道の駅しょうなん等の施設の活用</li> <li>・農業エリアの賑わい創出</li> </ul>
新市建設計画		
	目 標	両市町のまちづくりの方向性を尊重しつつ、新市の一体性の速やかな確立及び住民福祉の向上等を図るとともに、新市の均衡ある発展を進める
	概 要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な都市基盤整備の推進と地域産業の活性化・育成</li> <li>・教育・文化・スポーツ等を通じた人づくり</li> <li>・個性あるまちづくり</li> <li>・環境にやさしいまちづくり</li> <li>・子どもからお年寄りまで安心・安全に暮らすことができるまちづくり</li> <li>・自立性の高い都市の実現</li> </ul>
	手賀沼・手賀川の位置づけ	既存の農地や集落と一体となった田園居住環境の向上を目指すとともに、都市型農業の振興を図る
沼南地域整備方針		
	目 標	市の将来都市像「みんなでつくる 安心、希望、支えあいのまち 柏」の実現にむけ、沼南地域における地域振興や環境共生などに係る地域整備の方向性をまとめ、今後の地域づくりの推進にあたっての目安とすること
	概 要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柏地域との一体的なまちづくりの推進</li> <li>・環境の保全と共生</li> <li>・安心、安全で利便性の高い暮らしができるような居住環境の整備</li> <li>・産業振興等を通じた地域活力の向上</li> </ul>
	手賀沼・手賀川の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アグリビジネスパークの整備支援</li> <li>・道の駅、ふれあい緑道、環手賀沼サイクリングロードの活用促進</li> <li>・体験農園の整備支援</li> <li>・市民農園の整備</li> <li>・手賀沼フィッシングセンターの活用促進</li> </ul>
柏市景観計画		
	目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柏らしさ・地域らしさを活かした景観づくりを実現する。</li> <li>・柏の景観づくりマナーを確立し、定着させていく。</li> <li>・市民の手で進める景観づくりの活動を広げていく。</li> </ul>
	概 要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柏市全域を6地域に区分し、各地域の地域別ガイドラインをベースに景観誘導を図る。</li> <li>・柏市の景観を特徴づける地形や都市施設を「景観骨格」と位置付け、これらの場所を柏市景観まちづくり条例に基づく重点地区の候補地区とすると共に、市が先導的・積極的に景観形成を図る。</li> </ul>
	手賀沼・手賀川の位置づけ	柏市景観計画の自然・田園系地域とし、柏市の景観骨格の「水と緑のベルト」「都市拠点」として位置付けている。
柏市環境基本計画		
	目 標	社会経済システムと自然環境のバランスが保たれた持続可能な社会を構築し、恵み豊かな地球環境を保全していくために、市民・事業者・市の役割を明らかにし、三者が、相互に協働しながら積極的な取り組みを促進する
	概 要	残された貴重な自然を守る・暮らしの中で環境をいたわる・快適な環境の創造・地球市民としての意識を育む・市民と協働してつくる環境
	手賀沼・手賀	手賀沼の流域市や千葉県、関係する機関、市民団体と連携

	川の位置づけ	し、手賀沼水環境保全協議会を組織し、その中で市内小学生向けの船上見学会や市内の湧水・河川の水質調査、生物調査の実施
柏市生き物多様性プラン		
	目 標	柏市の生きもの多様性の減少を抑え、現状からの生きもの多様性の損失を大きくすることなく、将来的には2010年以前の水準まで再生させ、次世代により豊かな生きもの多様性を残す
	概 要	・水辺環境の保全と再生 ・谷津や台地等の多様な生態系の保全と回復 ・柏の希少種の保全 ・多様性を育む情報の蓄積と知識の普及啓発 ・柏の生態系の多様性を保全する仕組みづくり
	手賀沼・手賀川の位置づけ	手賀沼水環境保全協議会との連携による水辺環境の保全と再生の実施。また、手賀沼周辺において、生きもの多様性重要地区や商業施設、優れた景観、農業体験のできる場所等をつなげ、多くの市民が生きもの多様性を実感できるフットパスコースを作成予定
手賀沼アグリビジネスパーク事業（都市農業活性化計画）		
	目 標	産業としての農業を主体としながら、農業と地域資源を効果的に結びつけ、農業や観光・レクリエーションの振興による交流拠点および地域づくりを目指す。
	概 要	地域の強みと資源を活かした新たな農業ビジネスの推進 農村風景を活かし、都市住民との農業交流を推進 農業の6次産業化、観光農業を積極的に推進
	手賀沼・手賀川の位置づけ	手賀沼・手賀川周辺にある地域資源を活用し、手賀沼周辺地域特有の農業振興と地域づくり、地域活性化を目指す。
優良田園住宅制度		
	目 標	・柏市・既存集落を中心としたコミュニティの維持、地域活力の向上 ・都市生活者の多様な生活スタイルニーズへの対応
	概 要	柏市東部地域の布瀬、手賀、片山地区は、既に人口減少がみられ、既存の集落を中心としたコミュニティの維持、地域活力の向上が望まれている。 そのため、優良な田園環境を維持保全しつつ、当該集落の課題と多様な生活様式に対応した新たな都市生活者のニーズを結びつけ、潤いのある豊かな生活を営むことができる住宅の建設を可能とするため本制度を創設した。
	手賀沼・手賀川の位置づけ	手賀沼花火をはじめ、サイクリング、バードウォッチング、フィッシングや、伝統的寺社等と一体となって豊かな居住環境形成の一翼を担っている。

## ウ 印西市

環境基本計画		
	目 標	『「ひと まち 自然」が調和し、豊かで安心できる環境で暮らせるまち いんざい』を、印西市環境基本計画における目指す将来都市像とし、市民・事業者・市の三者協働

	<p>により、この将来環境像に向けた取り組みを行っていく</p> <p>基本目標① 緑や水辺が身近に感じられる、自然と共生するまちをめざして</p> <p>基本目標② 安心・安全に暮らせる、環境に負荷を与えないまちを目指して</p> <p>基本目標③ 都市としての魅力があふれる、快適なまちを目指して</p> <p>基本目標④ 低炭素社会の構築に向けた、地球環境に負荷を与えないまちを目指して</p> <p>基本目標⑤ 環境配慮行動の実践者を拡大し、みんなで環境を育てるまちを目指して</p>
概 要	<p>基本目標①（自然環境）の取り組み方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑や水辺を守り育てよう</li> <li>・生きものと共存しよう</li> </ul> <p>基本目標②（生活環境）の取り組み方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活環境に不安がないまちを目指そう</li> <li>・有害物質の排出・侵入を防ごう</li> </ul> <p>基本目標③（都市環境）の取り組み方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・快適で住みよいまちにしよう</li> <li>・歴史・文化が感じられるまちにしよう</li> </ul> <p>基本目標④（地球環境）の取り組み方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球にやさしいまちをつくろう</li> <li>・資源循環型のライフスタイルを実践しよう</li> </ul> <p>基本目標⑤（人づくり）の取り組み方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境を考え行動をする人を育てよう</li> <li>・環境配慮行動の実践を促すしくみをつくろう</li> </ul>
手賀沼・手賀川の位置づけ	<p>基本目標の①の施策、水辺とふれあえる場や機会の創出。市域を流れる河川や水路沿いの水辺は環境を保全し、地域における生態観察等の自然学習や環境学習の場や、水辺とのふれあいの場として活用していく。</p>
緑の基本計画	
目 標	<p>平成32年（2020年）を長期目標年次として、緑地の確保量、都市公園等の整備量、緑化の目標を定めた。</p> <p>緑地の確保量（平成32年）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市域面積に対して約40%の緑地の確保を目指します。</li> </ul> <p>都市公園等の整備量（平成32年）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民一人あたり約32平方メートルの整備を目指します。</li> </ul> <p>緑化の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設は、敷地面積の20%以上の緑化に努めます。</li> </ul> <p>個人住宅は、高木1本以上を植栽し、樹高5m以上に育つように努めます。生垣、花鉢、プランターなどにより接道部の緑化に努めます。</p>
概 要	<p>市民と市が力を合わせて緑豊かなまちづくりを進める際の基本的な考え方を示した、緑に関する総合的な計画。</p> <p>（実現するための柱）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・里山の緑と歴史を守る</li> <li>・まちに緑の拠点をつくる</li> <li>・水辺を保全・修復し活用する</li> <li>・花と緑の美しいまちをつくる</li> <li>・市民、企業、市が連携して</li> </ul>

	緑豊かなまちをつくる
手賀沼・手賀川の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全系統の緑地の配置方針の中で、市の緑の骨格となる緑地の1つとして、利根川・手賀川・手賀沼・将監川の水面、水辺緑地及び周辺に広がる農地を掲げ、保全・整備することとしている。</li> <li>・レクリエーション系統の緑地の配置方針の中で、多様なレクリエーション需要に対応する公園等の配置として、木下河岸・曾谷の窪瓦窯跡を、歴史とのふれあいの場として、手賀沼・将監川の緑地を、自然観察・水辺のレクリエーションの場として例示している。</li> <li>・防災系統の緑地の配置方針の中で、自然災害の危険性のある地区における緑地の確保として、利根川、手賀川、亀成川、神崎川、新川沿いの低地は、洪水氾濫の危険と液状化の危険度が高い地区であり、現況の水田等を確保し、被害防止を図ることとしている。</li> <li>・景観系統の緑地の配置方針の中で、水辺景観の保全として、利根川、手賀川、手賀沼、神崎川などの水辺の景観は、うるおいとやすらぎをもたらす重要な景観であり、隣接市町村とも連携を図りつつ保全していくこととしている。</li> <li>・上記の配置方針等を勘案した、総合的な緑地の配置方針の中で、緑地の連続性を協調し緑地を配置する7つの緑地軸の1つとして、利根川・手賀沼・水辺の緑地軸が配置されている。この緑地軸のテーマは、「都市の魅力を高める水辺の緑地軸」とされており、開放的な川と沼の景観等が特徴とされている。保全・整備の方向としては、親水性の向上や、サイクリングロード・散歩道の整備促進等が掲げられている。</li> <li>・実現のための施策の方針の中では、水辺を保全・修復し活用する施策として、水辺環境を保全するとともに、より豊かな自然を有する水辺や親しみやすい水辺として修復し活用する施策を展開することとしている。具体的には、水辺の自然生態系の保全・回復、水質の改善、水とふれあえる場の創出、水辺の歴史的環境の調査研究を掲げている。</li> </ul>
中心市街地活性化基本計画	
目 標	<p>(基本目標) ・歴史と文化・地域資源を活かした楽しく歩ける街づくり ・すべての人が動きやすい、安全で安心な街づくり ・おもてなしと憩い、癒しの環境に配慮した街づくり ・生活サービスの向上と集客力の高い街づくり</p> <p>・T-M-O (Teens Middle Old) 多世代参加による継続的な街づくり</p>
概 要	<p>(目的) これまでの市の歴史、文化、様々な地域資源の中心的な役割を果たしてきた中心市街地は、これからも地域の文化、地域資源を守り、次代へと引継ぎ、育成していく役割を担っている。また、まちづくりの基本姿勢である既存市街地と千葉ニュータウンとが互いに連携し、補完し合う一体的なまちづくりを実現していくため、中心市街地の</p>

		再生を進める。
	手賀沼・手賀川の位置づけ	中心市街地の三方を利根川、弁天川、手賀川（通称：六軒川）、亀成川に囲まれ、かつて利根川水運で繁栄した木下河岸に代表される当地域は、「人・物・文化」が行き交う交流拠点（水の駅）であり、今もなお、歴史を感じさせる蔵・町屋がみられ豊かな水辺をもっています。これらの特性から、中心市街地全体を「水の駅きおろし」と位置付け、歴史、自然、人々の出会いをテーマに魅力づくりをしていくことが必要である。
ぶらり川めぐり		
	目 標	のどかな風景を見ながらゆったりと楽しむ水上散歩による地域活性化
	概 要	印西市観光協会の実施する六軒川、弁天川、手賀川をめぐる舟運事業
	手賀沼・手賀川の位置づけ	手賀川を身近に感じる体験型事業
「川の停車場」産直軽トラ市		
	目 標	イベントや舟運事業を通じた地域活性化
	概 要	印西市観光協会が第2停船場（川の停車場）で開催するイベント。地場製品の販売やフリーマーケットが出店する。
	手賀沼・手賀川の位置づけ	ぶらり川めぐりと連携した、交流イベント

## エ 我孫子市

我孫子市観光振興計画		
	目 標	交流人口の拡大によるまちの活性化や市民の地元愛の育成等を目的に、我孫子市の今後の観光振興施策の方向性や進め方等を示す
	概 要	観光資源の磨き上げ、観光基盤の充実など
	手賀沼・手賀川の位置づけ	手賀沼を核として我孫子地区の史跡や文化財の集積する地域をリーディング地区に設定し、先導的・優先的に振興を図る。
手賀沼文化拠点整備計画		
	目 標	①文化・歴史・自然を活かした魅力向上 ②魅力発信と交流促進 ③未来への継承
	概 要	歴史公園の整備、杉村楚人冠邸の保存・整備・活用、嘉納治五郎別荘跡地の整備・活用、白樺文学館との連携、志賀直哉邸跡の再整備・活用、手賀沼公園の再整備・活用など
	手賀沼・手賀川の位置づけ	手賀沼のほとりにある文化・歴史・自然環境に関わるポイントをネットワーク化し、市民を含む多くの来訪者が我孫子の豊かさを実感できる空間を創り、我孫子の魅力向上を図る。
我孫子市景観形成基本計画		
	目 標	『鳥にやさしい、暮らしを彩る景観づくり・あびこ』を目標とし、“水と緑の縁どり”と“人々の営み”のそれぞれに対応させ、お互いに共生しあって、豊かな環境をつくり

		だす。
	概 要	我孫子市基本構想に示された将来都市像『手賀沼のほとり心輝くまち』～人・鳥・文化のハーモニー～の実現のため、本市の景観形成に関わる目標や方針、推進の方策などをまとめている。
	手賀沼・手賀川の位置づけ	特に先導的かつ重点的に景観形成を推進する地区のひとつとして手賀沼周辺を指定し、「手賀沼ふれあいライン特定地区」としている。
我孫子市手賀沼沿い農地活用計画		
	目 標	手賀沼沿いに位置する根戸新田、高野山新田・我孫子新田及び岡発戸新田の3地区の地域特性を生かした農地の保全・活用及び農業の振興を図る。
	概 要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区農業、農家への支援</li> <li>・活用困難な農地の受け皿対策</li> <li>・市民の理解の増進、協働</li> <li>・農村景観対策</li> <li>・他分野との連携</li> </ul>
	手賀沼・手賀川の位置づけ	手賀沼や斜面林等と一体となった豊かな自然環境を形成しており、これらの地区の農地を保全し、農地として継続して活用していく必要があるとしている。
我孫子市環境基本計画（「第3章 手賀沼を誇れるまちづくり」より）		
	目 標	我孫子市のシンボルである手賀沼を思いやり、手賀沼とともにくらすことを誇れるまちづくりを進めるとともに、手賀沼の水質浄化に取り組む人々の知恵や力の輪を広げ、手賀沼流域の人々の新たな連携を築く。
	概 要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手賀沼の水を浄化し、再生をめざす</li> <li>・手賀沼を守り、手賀沼を活かす</li> <li>・手賀沼を感じ、手賀沼にくらす</li> </ul>
	手賀沼・手賀川の位置づけ	手賀沼は我孫子市のシンボルとして位置づけている。
ジャパンバードフェスティバル		
	目 標	「人と鳥の共存をめざして」をテーマに鳥をまちづくりの基準としてのモノサシとし、野鳥をはじめとする多様な生物が生息できる自然環境の保全・復活を願い開催している。
	概 要	鳥のお絵かきやミニ工作、小・中学生、高校生が自然観察の成果を発表する環境学会、鳥学講座、手賀沼バードウォッチングツアー、野鳥撮影体験、野鳥の写真展・絵画展、バードカービング作品展、全国各地からの自然や野鳥保護団体の展示、軽食コーナーなど「遊ぶ、学ぶ、親しむ」鳥を楽しむ2日間のイベント。
	手賀沼・手賀川の位置づけ	手賀沼の魅力を活かして、手賀沼の湖畔で開催している。（手賀沼公園、手賀沼親水広場ほか）
ENJOY手賀沼！		
	目 標	一人ひとりが手賀沼とのかかわりを考えながら楽しい一

	日を過ごす。
概 要	手賀沼探鳥会、手賀沼遊覧船ガイドツアー、アクセスディンギー（小型ヨット）&カヌー体験乗船、青少年相談員と遊ぼうくプチゲーセン、ジャブジャブ池でゴムボート、NECグリーンロケッツと遊ぼう NECグリーンロケッツEボートに乗って、手賀沼をのぞいてみよう、稚魚の放流など様々なイベントを毎年5月の第2日曜日に実施。
手賀沼・手賀川の位置づけ	一人ひとりが手賀沼とのかかわりを考えるきっかけとして開催されている。
手賀沼写真コンクール・手賀沼カレンダーの作成・販売	
目 標	手賀沼の浄化啓発
概 要	手賀沼の浄化啓発を目的に「手賀沼と周辺の自然景観、手賀沼と人とのふれあい」をテーマにした作品を公募し、写真コンクールを行っている。また、厳選された作品を素材にしてカレンダーを作成している。
手賀沼・手賀川の位置づけ	手賀沼・手賀川で撮影された写真が対象となっている。

## オ 広域

手賀沼エコマラソン	
目 標	・手賀沼浄化啓発運動の推進 ・自然と共存する手賀沼を広くアピール ・健康増進の高揚 ・地域・社会の活性化とスポーツ文化の振興
概 要	手賀沼周回コース（日本陸連公認コース）におけるハーフマラソンである。
手賀沼・手賀川の位置づけ	環境問題を考えるシンボル 身近な環境について考え、日常の中でエコ活動を実践するきっかけとなることを願う
手賀沼花火大会	
目 標	・市民のふれあい ・手賀沼の水質浄化の啓発 ・観光振興
概 要	手賀沼湖上での花火大会。柏第1・2会場と我孫子会場の計3ヶ所で、合計13,500発の花火を打ち上げる。平成26年度は、8月2日（土）に開催され、観客総数44万人であった。
手賀沼・手賀川の位置づけ	柏市、我孫子市との共同連携事業として実施している。手賀沼流域で行われる最大規模のイベント
TEGAスタンプラリー2014	
目 標	柏市、我孫子市、印西市が一体となって行う手賀沼・手賀川の観光振興
概 要	手賀沼・手賀川周辺の観光スポット16ヶ所にスタンプを設置し、4つのエリアごとに1ヶ所ずつ、計3ヶ所のスタンプを押すと、抽選で景品をプレゼント。
手賀沼・手賀川の位置づけ	柏市、我孫子市、印西市との共同連携事業として実施

手賀沼周遊レンタサイクル事業	
目 標	柏市、我孫子市が一体となっていく手賀沼・手賀川の観光振興
概 要	柏市2箇所（道の駅、北柏ふるさと公園）、我孫子市3箇所（手賀沼公園、鳥の博物館、サイクルパーク我孫子南）にサイクルポートを設置して、1日300円（子どもは100円）で自転車を貸出する。
手賀沼・手賀川の位置づけ	柏市、我孫子市との共同連携事業として実施
手賀沼トライアスロン大会	
目 標	よみがえる手賀沼を全国にPRし、きれいな手賀沼の水辺や水資源の大切さを普及する。
概 要	手賀沼トライアスロン実行委員会が主催する、県協会公認のトライアスロン大会。 スイム1.5Km、バイク40Km、ラン10Kmのトータル51.5Kmで競われる。
手賀沼・手賀川の位置づけ	手賀沼及び手賀沼自然ふれあい緑道をコースとして行われる
手賀沼ふれあいウォーク	
目 標	手賀沼の畔を自然や文化を感じながら、ウォーキングし、市民の主体的・積極的な健康づくりを推進する。
概 要	手賀沼1周20km、半周10km、探偵ウォークコース4kmの3コース
手賀沼・手賀川の位置づけ	手賀沼の畔をコースとしている。
手賀沼流域フォーラム	
目 標	手賀沼の水質の改善や流域の環境保全を進める。
概 要	市民活動団体、流域7市（柏・我孫子・印西・白井・鎌ヶ谷・松戸・流山）、手賀沼水環境保全協議会が協働し、流域各地で、水質測定、自然観察会、文化・歴史散歩、講演会やシンポジウムなどを開催している。
手賀沼・手賀川の位置づけ	手賀沼流域各地で事業を実施している。

## 5. 市民ニーズ等

### (1) 各市のアンケート調査

手賀沼・手賀川エリアの日常的なにぎわいを創出するため、各構成市の観光振興等に対する市民ニーズについて、「柏市観光基本計画」の策定時に実施した「アンケート調査(平成25年度実施)」や「ヒアリング調査(平成25年度実施)」、印西市が実施した「市民満足度・重要度調査(平成25年12月実施)」、我孫子市観光振興計画の策定時に実施した「我孫子市の観光に関するアンケート調査(平成24年8月実施)」などにより、観光・レジャーに関する市民や首都圏住民のニーズを確認しました。

#### ア 柏市のアンケート調査結果

##### (ア) 柏市観光基本計画 資料編(平成26年3月)

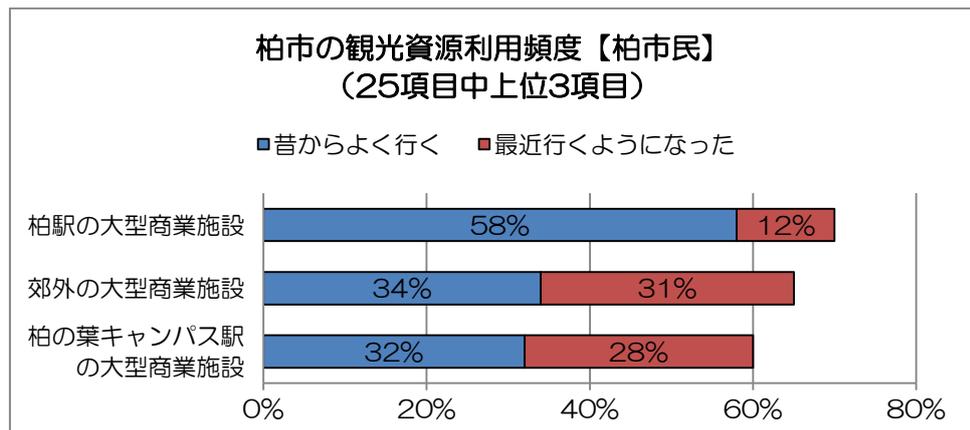
##### a アンケート調査の概要

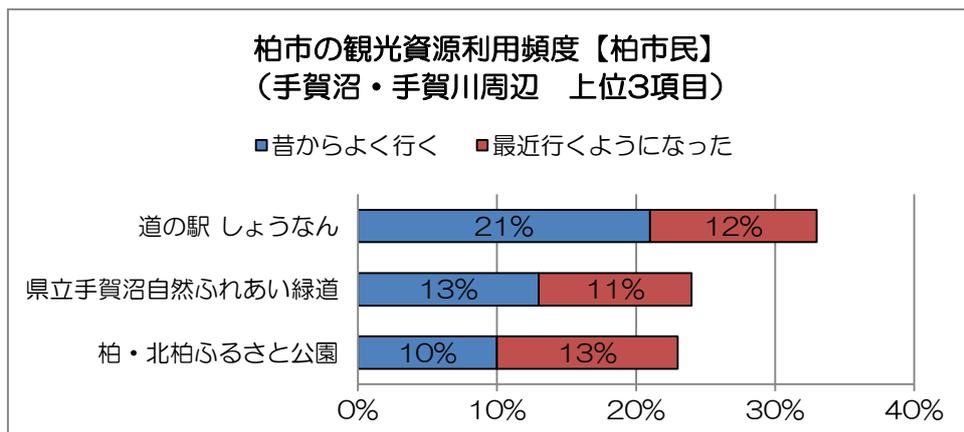
効果的かつ、持続的な計画を策定するために、柏市民や柏市への来訪者(各々500人以上)及び柏市事業者(100社以上)に対し、現状の分析と課題整理を目的にアンケート調査を行いました。また、観光関連事業者(15社)に対し、対面方式により、一定項目に沿ってヒアリングを実施しました。

##### b 調査結果の概要

##### (a) 市民アンケート結果

##### ・観光資源の利用頻度





柏市の観光資源25項目の利用頻度を見ると、上位3項目は「柏駅の大型商業施設」(70%)、「郊外の大型商業施設」(65%)、「柏の葉キャンパス駅の大型商業施設」(60%)となり、手賀沼・手賀川周辺の観光資源では、「道の駅 しょうなん」(33%)、「県立手賀沼自然ふれあい緑道」(24%)、「柏・北柏ふるさと公園」(23%)が上位3項目となりました。

• “知る人ぞ知る” 観光スポット

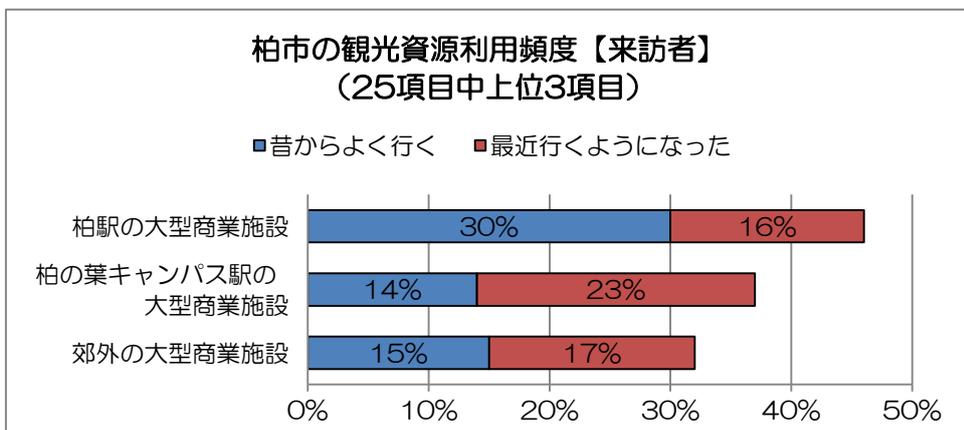
観光資源25項目以外に、あまり知られていない“知る人ぞ知る”観光スポットや、とっておきの風景等についての回答の中には、「手賀沼周辺」で「桜がきれい」といった意見がありました。

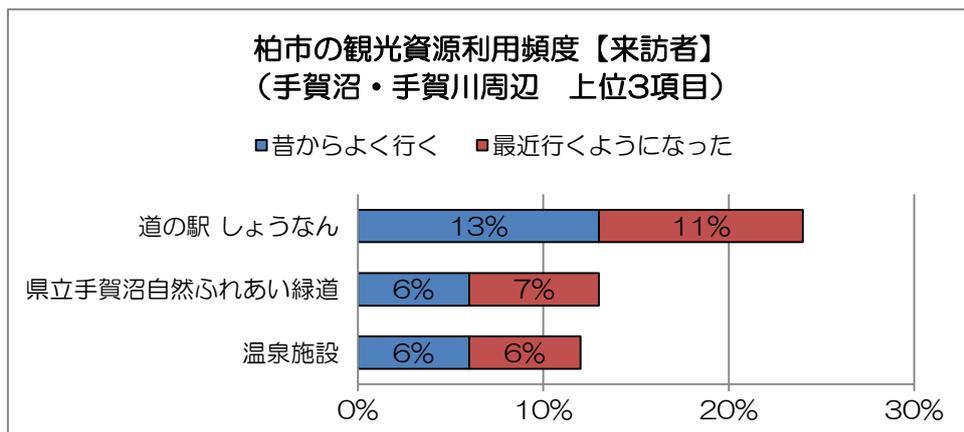
• 「手賀沼周辺」についての不満

「手賀沼周辺」について、不満に感じることにについてへの回答では、「交通不便。遠くて行きにくい。駐車場が少ない。」「良い所だが夜は暗くて怖い。」「ジョギングして、のどが渇くがお店がない。」「木陰が少ない。沼が汚い。」といった意見がありました。

(b) 来訪者アンケート結果

• 観光資源の利用頻度

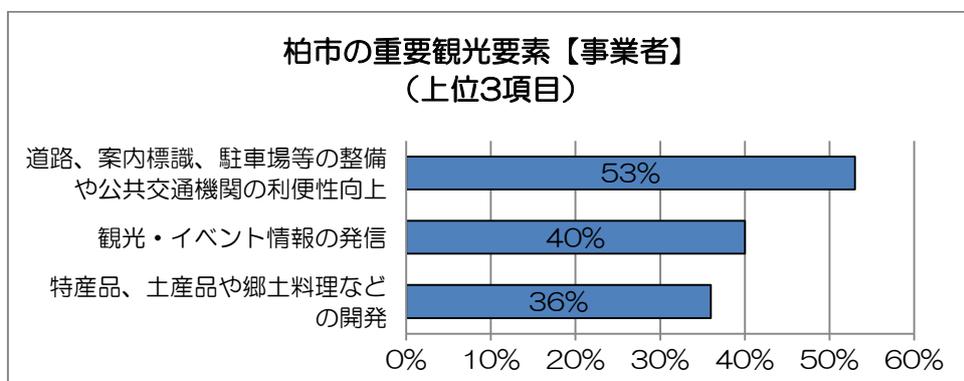




柏市の観光資源25項目の利用頻度（昔からよく行く、最近行くようになった）を見ると、上位3項目は「柏駅の大型商業施設」（46%）、「柏の葉キャンパス駅の大型商業施設」（37%）、「郊外の大型商業施設」（32%）となり、手賀沼・手賀川周辺の観光資源では「道の駅 しょうなん」（24%）、「県立手賀沼自然ふれあい緑道」（13%）、「温泉施設」（12%）が上位3項目となりました。

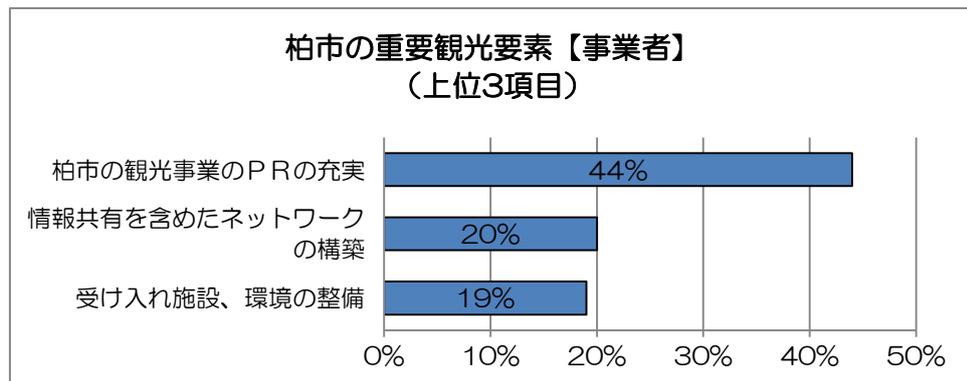
(c) 事業者アンケート結果

- ・ 柏市での重要な観光要素



柏市での観光要素として重要なものとして上位3項目に挙げられたのは「道路、案内標識、駐車場等の整備や公共交通機関の利便性向上」（53%）、「観光・イベント情報の発信」（40%）、「特産品、土産品や郷土料理などの開発」（36%）となりました。

- ・ 柏市の観光事業に求められる政策支援



今後の柏市の観光事業において、事業者が求める政策的な支援については「柏市の観光事業のPRの充実（44%）」、「情報共有を含めたネットワークの構築（20%）」、「受け入れ施設、環境の整備（19%）」が上位3項目となりました。

(d) 観光関連事業者ヒアリング結果

- ・ 柏市の観光振興について

柏市の観光振興に重要な政策はなんだと思いますかの質問では、「取組みと組織」に関する回答の中で、「手賀地域は農地の規制があり、農地の活用については政策的な支援が欠かせない。」といった意見がありました。

- ・ 事業者の観光・集客の現状の課題および展望等

観光振興を推進するための方策案についての質問では、「手賀沼地区も、交通の便がよくなれば、もっとリゾート感、市民の憩いの場として定着していくのではないか。」といった意見がありました。

c 調査結果の考察

市民と来訪者へのアンケート結果では、手賀沼・手賀川周辺の観光資源の中で「道の駅しょうなん」、「県立手賀沼自然ふれあい緑道」、「柏・北柏ふるさと公園」、「温泉施設」が上位に挙がり、買い物やスポーツ、リラクゼーション等を目的に利用されていると考えられます。

しかし、柏市の観光資源全体では大型商業施設の利用が突出して多く、手賀沼・手賀川周辺の観光資源においては認知していない方も多いと考えられ、情報発信の強化を図る必要があります。

また、市民利用者からは駐車場や休憩施設等の整備など、設備面や交通に関する不満があることや、事業者アンケートにおいても交通に関する利便性の向上に

については、観光の重要な要素であると認識されています。さらに、観光関連事業者ヒアリングにおいて意見があったように、農業を観光振興として活かしていくためには行政支援が必要です。

手賀沼・手賀川周辺の更なる観光振興のためには、多くの方に魅力を発信する仕組みや設備面の充実、交通への取組み、農業を観光資源と捉えること、また、民間事業者等の参入を促進するための規制緩和等が考えられます。

## イ 印西市の市民アンケート調査結果

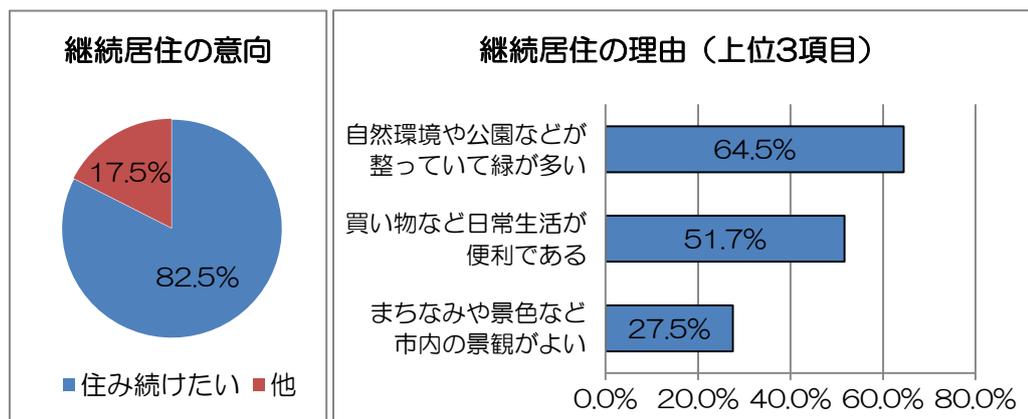
### (ア) 印西市市民満足度・重要度調査（平成 25 年 12 月）

#### a アンケート調査の概要

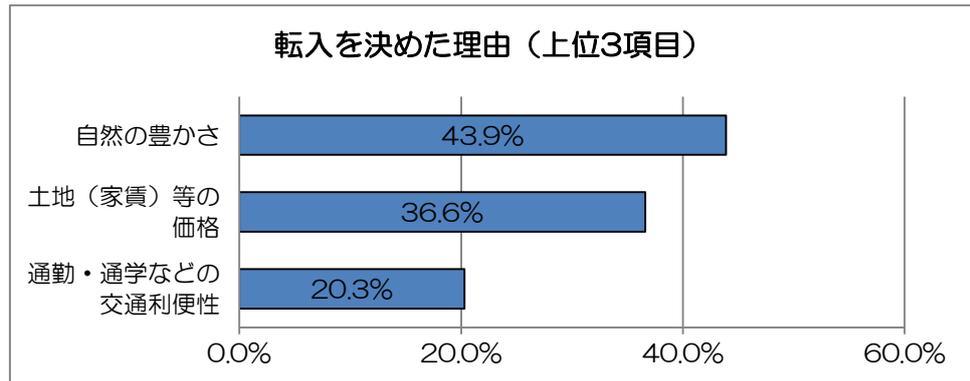
計画の進行管理や見直しなど市政運営の基礎資料にするため、印西市在住の満 20 歳以上の男女 3,000 人を対象に、施策全般についての意向調査を実施しました。

#### b 調査結果の概要

##### (a) 住み心地について

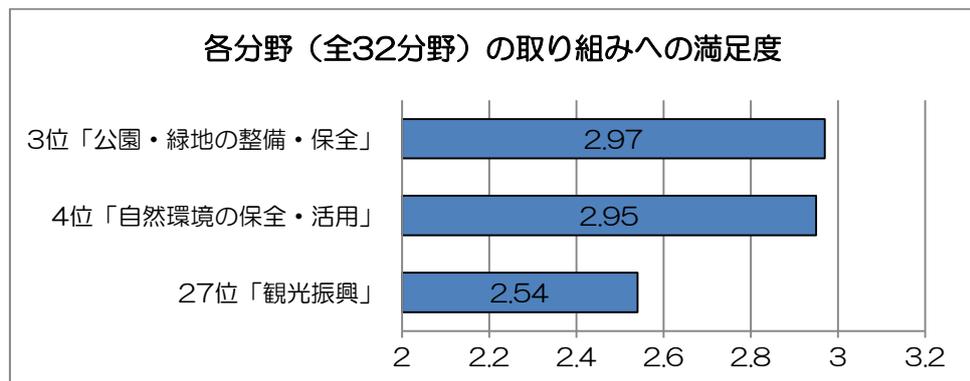


継続居住の意向では《住み続けたい》が 82.5%となっており、その理由は、「自然環境や公園などが整っていて緑が多い」が 64.5%で最も多く、続いて「買い物など日常生活が便利である」(51.7%)、「まち並や景色など市内の景観がよい」(27.5%)となっています。回答を地域別に見ると、千葉ニュータウン地域の 73.2%、千葉ニュータウン地域外の 49.7%が、「自然環境や公園などが整っていて緑が多い」の項目を挙げており、両地域ともに全項目中で最も高い項目になっています。

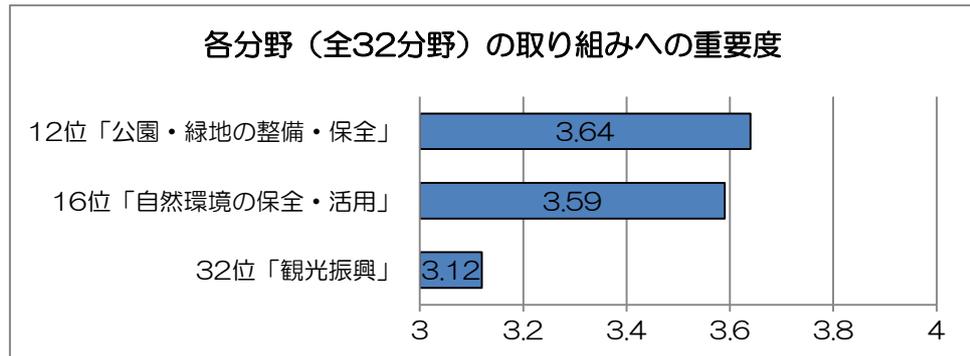


また、転入を決めた理由では、「自然の豊かさ」が43.9%で最も多く、続いて「土地（家賃）等の価格」（36.6%）、「通勤・通学などの交通利便性」（20.3%）となっています。回答を地域別に見ると、千葉ニュータウン地域の48.5%、千葉ニュータウン地域外の32.3%が「自然の豊かさ」を挙げており、千葉ニュータウン地域では、全項目中1位、千葉ニュータウン地域外では「親族と同居するため」の37.4%に次ぐ2位となっています。

(b) 印西市のまちづくりについて



各分野（全32分野）の取り組みへの満足度では、「公園・緑地の整備・保全」が2.97ポイントで3位、「自然環境の保全・活用」が2.95ポイントで4位、「観光振興」は2.54ポイントで27位となっており、地域別に見ると、千葉ニュータウン地域では「公園・緑地の整備・保全」が3.11ポイントで2位、「自然環境の保全・活用」が3.03ポイントで4位となっているのに対し、千葉ニュータウン地域外では、「公園・緑地の整備・保全」が2.70ポイントで17位、「自然環境の保全・活用」が2.80ポイントで9位となっています。



また、重要度では、「自然環境の保全・活用」が3.64ポイントで12位、「公園・緑地の整備・保全」が3.59ポイントで16位、「観光振興」は3.12ポイントで32位となっています。地域別では大きな差は見られないものの、他の分野と比較して「自然環境の保全・活用」、「公園・緑地の整備・保全」の重要度は中位程度、「観光振興」については最下位となっています。

#### (c) 自由意見

手賀沼・手賀川に関する意見として、水辺への植栽や遊歩道の整備を求める意見がありました。

生活環境分野では、アスレチックなどの遊具の充実した公園や水とふれあえる公園、サイクリングコースやランニングコース、キャンプ場等の整備を求める意見がありました。

産業振興分野では、集客力のある魅力的なカフェや飲食店の誘致、音楽祭、花火大会、マラソン大会などのイベントの開催のほか、農作物のPRや農業と一体となった観光開発を求める意見がありました。

#### (イ) 調査結果についての考察

自然環境や公園の整備については、全体では継続居住や居住地選択の要因として最も多く挙げられ、満足度でも上位に入っていますが、地域別で見ると、千葉ニュータウン地域外には手賀沼・手賀川のほか多くの自然が存在するにも関わらず、いずれも千葉ニュータウン地域に比べて低くなっており、千葉ニュータウン地域外の整備の遅れが感じられます。

また、観光振興については、全地域で満足度が低く、自由意見においてもイベントの実施や観光スポットの整備を求める意見があるなど、取り組みを推進する必要がありますが、一方で重要度は全地域で最下位となっており、観光振興に関する重要性を感じていないというのが現状です。

このようなことから、手賀沼・手賀川地域の水辺をはじめ、多くの自然を地域

の魅力として捉えられるように、市民が自然と親しみ、触れ合える環境の整備などが、印西市のまちづくりにおいて必要となっています。また、イベントの実施やレジャー施設の整備などへの取り組みが必要とされている面もあることから、手賀沼・手賀川地域の観光地としての魅力を向上させるとともに、効果的な情報発信により、手賀沼・手賀川地域などの印西市の「自然の豊かさ」をアピールしていくことが重要です。

#### ウ 我孫子市の市民アンケート調査結果

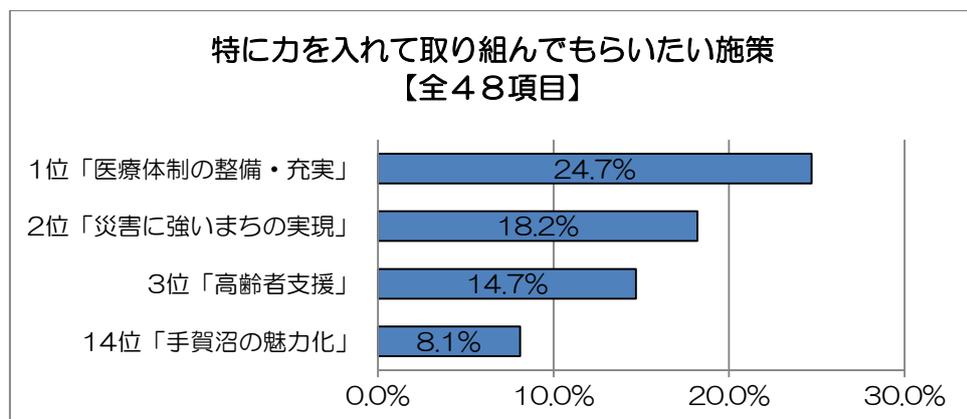
##### (ア) 市民アンケート調査報告書（平成 23 年 9 月）

###### a アンケート調査の概要

「我孫子市第三次総合計画 基本構想 第二次基本計画後期計画」（平成 24 年 3 月改訂）の策定にいかすため、これまで市が実施してきた施策に対する市民の満足度・重要度や、定住意向や転居意向について、18 歳以上の市民 5,000 人を対象にアンケート調査を実施しました。

###### b 調査結果の概要

###### (a) 我孫子市に特に力を入れて取り組んでもらいたいと考えている施策



（環境）や（健康福祉）、（生涯学習）などの 10 区分 48 項目のうち、上位 3 項目は「医療体制の整備・充実」（24.7%）、「災害に強いまちの実現」（18.2%）、「高齢者支援」（14.7%）となり、その中で「手賀沼の魅力化」は 8.1%と 48 項目中 14 位となっています。

###### (b) 自由意見

手賀沼・手賀川に関して、浄化や魅力化を進めてもらいたいという意見は多く、具体的には、ウォーキングロードやサイクリングロード、遊歩道などの整備、沼沿いの公園のさらなる整備、公設釣り場などの整備やトイレの設置など水辺の設備の充実や水辺への桜などの植樹を求める意見などがあり

ました。我孫子駅から手賀沼へ訪れる道路の整備の充実を求める声もあり、おもにハード面の充実についての市民ニーズが高いことが伺えます。

また、手賀沼の浄化、再生、魅力化などは、柏市、印西市などの近隣市と協力して進めるべきだという意見もありました。

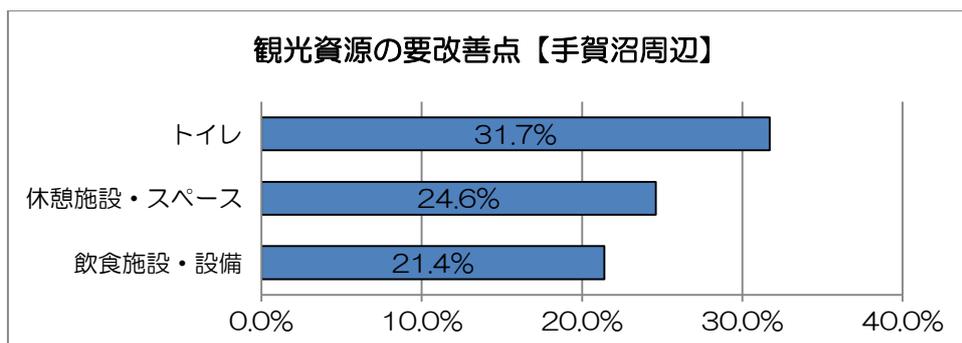
(イ) 我孫子市の観光に関するアンケート調査報告書（平成 24 年 9 月）

a アンケート調査の概要

「我孫子市観光振興計画」（平成 25 年 3 月策定）の基礎資料として活用するため、市内における観光・レジャーの状況や観光資源に対する評価等について、20 歳以上の市民 2,000 人を対象にした「市民調査」と、1 都 4 県（東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、茨城県）在住の 1,000 人を対象にした「首都圏住民調査」を実施しました。

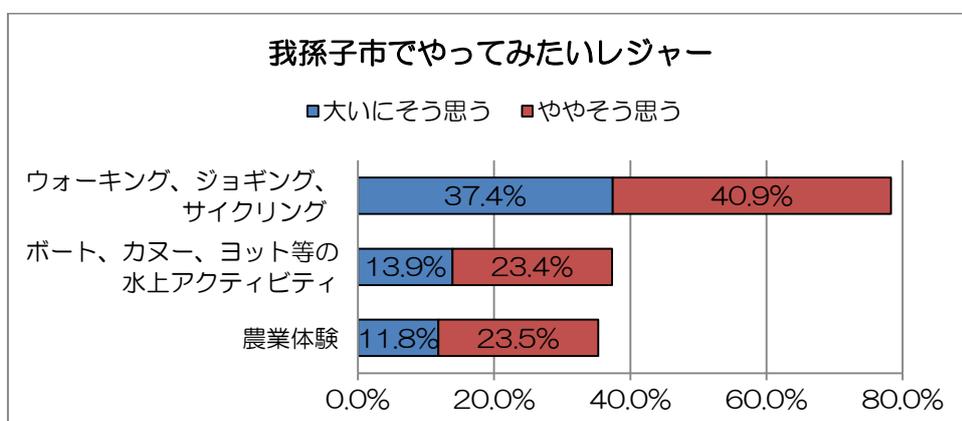
b 市民調査結果の概要

(a) 観光資源の要改善点



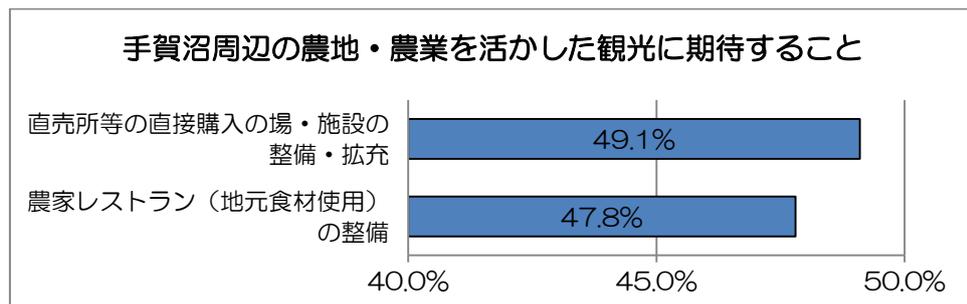
観光資源の要改善点（改善した方がよい又はあった方がよいと思うもの）を見ると、「手賀沼周辺」では「トイレ」（31.7%）や「休憩施設・スペース」（24.6%）、「飲食施設・設備」（21.4%）の比率が高くなっています。

(b) 我孫子市でやってみたいレジャー



我孫子市で「ウォーキング、ジョギング、サイクリング」、「ボート、カヌー、ヨット等の水上アクティビティ」、「農業体験」をやってみたいかたずねたところ、「そう思う（大いにそう思う+ややそう思う）」の比率は、「ウォーキング、ジョギング、サイクリング」が78.3%で最も高く、次いで「ボート、カヌー、ヨット等の水上アクティビティ」が37.3%、「農業体験」が35.3%となりました。

(c) 手賀沼周辺の農地・農業を活かした観光に期待すること



手賀沼周辺の農地・農業を活かした観光に期待することは、「直売所等の直接購入の場・施設の整備・拡充」が49.1%、「農家レストラン（地元食材使用）の整備」が47.8%と、この2つが突出して高くなりました。

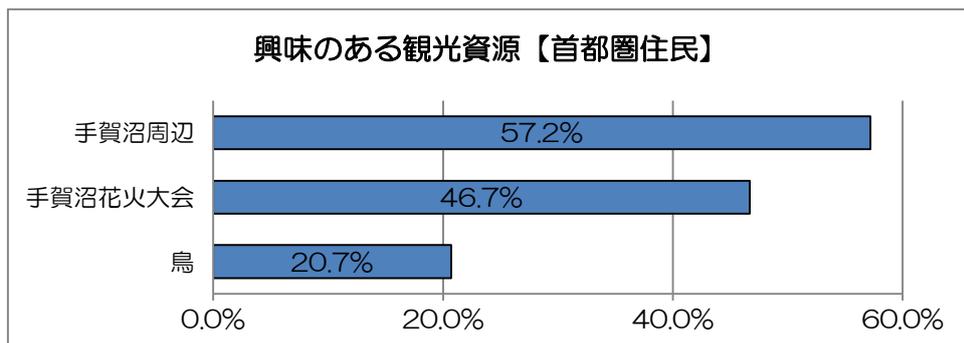
(d) 自由意見

手賀沼・手賀川に関して、観光の観点から、やはり手賀沼を中心にして、周辺の自然や歴史・文化施設を活用すべきという意見やより親しみやすい空間にするためのハード整備を望む声が多くみられました。

具体的には、我孫子は「北の鎌倉」と称されることから大正ロマンの香り漂う美しい場所にする、手賀沼周辺の樹木を増やす、トイレ、直売所、自然レストランを作るなどの意見や、例えば、子どもが釣りを安全にできるような場所やすごく長いミニSLの整備など「ココだけ感」を出してみるのも面白いという意見もありました。また、手賀沼プラスアルファが大事であり、手賀沼プラス水上の遊び、周辺の散策、写真撮影会などのイベントを実施している団体・企業等のイベント情報を手賀沼のHPとしてアピールしていけば魅力を伝えられるなどの意見もありました。駅から手賀沼までのアクセスへの不満や駐車場の整備を望む声も見られました。

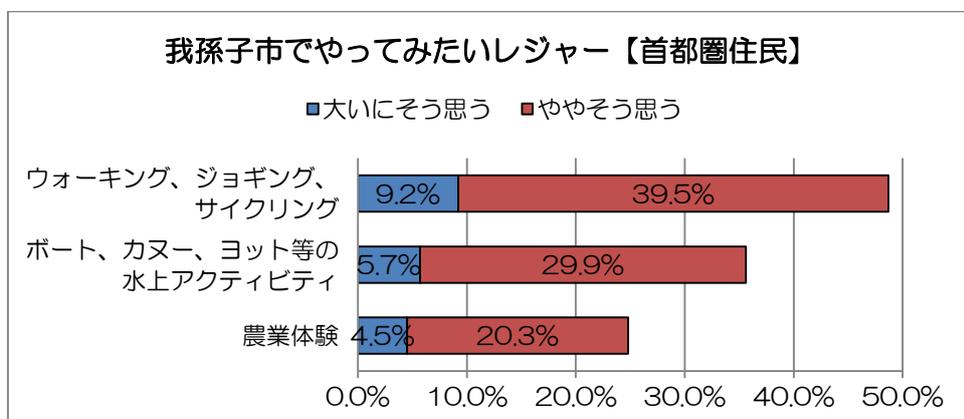
c 首都圏住民調査結果の概要

(a) 興味のある観光資源



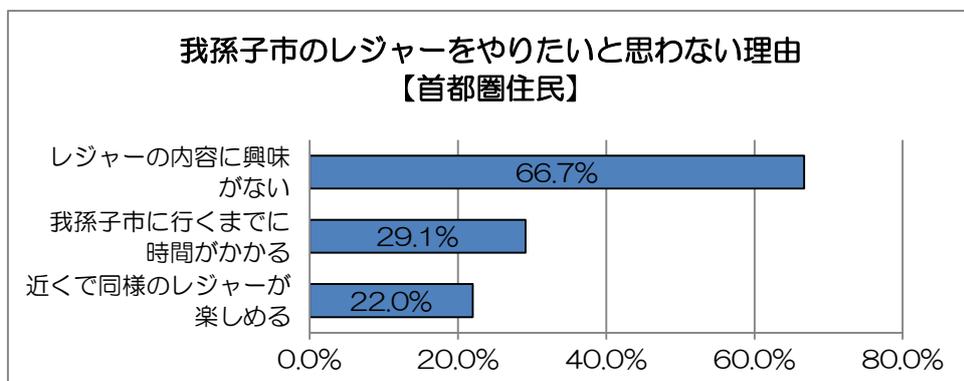
興味のある観光資源を見ると、「手賀沼周辺」が57.2%と最も高く、以下「手賀沼花火大会」(46.7%)、「鳥」(20.7%)となっています。

(b) 我孫子市でやってみたいレジャー



我孫子市で「ウォーキング、ジョギング、サイクリング」、「ボート、カヌー、ヨット等の水上アクティビティ」、「農業体験」をやってみたくたずねたところ、「そう思う（大いにそう思う＋ややそう思う）」の比率は、「ウォーキング、ジョギング、サイクリング」が48.7%で最も高く、次いで「ボート、カヌー、ヨット等の水上アクティビティ」が35.6%、「農業体験」が24.8%となりました。

(c) 我孫子市のレジャーをやりたいと思わない理由



「我孫子市のレジャーをやりたいか」をたずねた質問で「あまり思わない」「そう思わない」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「レジャーの内容に興味がない」が66.7%と突出して高くなっており、「我孫子市に行くまでに時間がかかる」が29.1%、「近くで同様のレジャーが楽しめる」が22.0%となっています。

#### (ウ) 調査結果についての考察

いずれのアンケートにおいても、我孫子市民の手賀沼（手賀川）に対する関心度は高い位置を占めています。首都圏住民においても、我孫子市の観光については手賀沼周辺の観光資源に最も興味を持っていることがわかりました。

その中でも、レジャーとしての「ウォーキング、ジョギング、サイクリング」の需要は最も高く、それらレジャーをするためにも、トイレ、飲食施設、休憩所などを要望する声は多くみられました。同時に、手賀沼までのアクセスの向上を望む声も多数見られました。

総じて手賀沼（手賀川）については魅力を感じているものの、設備面やアクセス面で不満を抱えている人が多いようです。今後、より多くの人に訪れてもらうためには、その部分を重点的に整備していくことが求められるといえます。

## (2) 民間進出可能性調査

「手賀沼・手賀川周辺における民間進出可能性調査業務報告書」(平成26年3月)

### ア アンケート調査の目的

手賀沼・手賀川活用推進協議会中間報告書における想定事業は、民間活力の導入が求められるものが少なくないため、手賀沼・手賀川やその周辺地域において、観光・商業・農業・環境・レクリエーションの振興に資する取り組みを行う可能性のある民間の企業や団体等に対してヒアリングを行い、手賀沼・手賀川周辺における民間進出の可能性について課題を整理することを目的として、「食」「水上アクティビティ」「スポーツ等」の分野における12の企業・団体を抽出し、ヒアリングを行いました。

### イ 調査結果の概要

#### (ア) 手賀沼・手賀川地域の可能性及び民間進出にかかる課題

首都圏には手賀沼ほどの規模の水域はなく、自然に恵まれている場所も限られることから、ヒアリング先からは、特に「スポーツ」「水上アクティビティ」「食」の分野において、手賀沼・手賀川地域の持つ可能性は高く評価されました。

「スポーツ」「水上アクティビティ」「食」の分野において、手賀沼・手賀川地域を振興するためには、ランニングやサイクリングする人の利便性を高める施設や水上アクティビティ関連施設、レストラン・カフェ等の整備を行うことが必要になってきますが、手賀沼・手賀川地域にはさまざまな規制があり、現状ではこれらの施設の整備は難しい状況です。

民間の企業のうち、自転車関連やスポーツ用品関連、船舶関連の企業においては、手賀沼・手賀川地域への直営店出店の可能性について否定的でした。これらの企業は、イベント開催についても、主体的に関与する可能性は低く、多くの集客が見込まれるイベントが開催される場合に限り、関与する可能性があるとのことでした。

一方、飲食関連の民間企業については、店舗形態の検討や駐車場の確保といった課題はあるものの、手賀沼・手賀川地域のさまざまな規制が緩和・解除され、採算の合う水準の集客が見込まれる立地条件であれば、進出の可能性はあるものと見られます。

なお、今回、ヒアリングを行った民間企業は各業種 1 社でしたが、同業他社も視野に入れた回答を得ており、ヒアリング先企業の意見や考察等は、当該企業の属する業種全体に一般化できるものと判断して差し支えないものと考えます。

#### (イ) 手賀沼・手賀川地域への民間進出に際して行政に求められる事項

民間が手賀沼・手賀川地域を活性化するための施設を整備する場合には、現存する種々の規制を除外する手続きが必要となりますが、許認可主体がさまざまです。手続きが煩雑となることを見込まれることから、行政の支援が求められます。

また、民間では、施設整備にあたり利用可能な補助金に関する知見が乏しい向きもあることから、こうした面でも行政の支援が求められると考えられます。

すでに手賀沼・手賀川地域では、民間事業者の事業展開により、にぎわいが創出されており、今後の手賀沼・手賀川地域のさらなる活性化の基盤となるものです。したがって、これらの企業・団体の活動を円滑化させるための支援は、引き続き行政に求められるものと考えます。